

武蔵野BASISフィールド・スタディーズ (M B F S)
(長期学外学修プログラム)

I N D E X

1. 武蔵野大学の教育理念と教育改革の推移
2. 本事業の概要
3. その他（中期的な課題等）

1. 武蔵野大学の教育理念と教育改革の推移

「教育は人間の可能性を発見するものである。

そこであらゆる本能を導き出して、その素質の如何を発見せねばならぬ。」

学祖 高楠順次郎の教育理念のもと、

日本の未来を創出する(イノベーションをデザインする)人材を育成するため、
教育改革を鋭意推進。

本学の主な教育改革の推移（改組除く）

	教育制度	教育方法
～H19	H 8:全学GPA制度導入 H16:全学CAP制導入 H17:海外インターンシップ導入 H18:全学4年間の履修上限単位数設定	Teaching methodの改革 [第1期] ・H17:全学的FD研修開始 ・H19～21:FD研修を学外公開 (グループ・ワーク及びファシリテーション・スキル)
H20	・全学委員会結集、カリキュラムを中心とした根本的な教育改革に着手	
H21	・改革中核組織である カリキュラム改革委員会組織化	
H22	全学カリキュラム改革 ・3つの方針「武蔵野学士力」 ・全学初年次共通基礎課程「武蔵野BASIS」 ・大学教養教育リサーチセンター設置	Teaching methodの改革 [第2期] ・全学部全学科横断授業 ・グループ・ワーク及びファシリテーションの積極的導入
H23	・産官学連携教育プログラム開発強化	・現在のIRの基盤となるキャリア・ポートフォリオ・システム導入
H24	・ サブ・メジャー制度導入 ・「体験教育」をカリキュラムに積極的に導入	Teaching methodの改革 [第3期] ・体験教育必須化(1年次、薬学科除く) 平成24年度1,551名、平成25年度1,583名、平成26年度1,819名の1年生が参加
H25	・シラバスの完成期(明確な到達目標、授業時間外学修(予習・復習)の明示)	
H26	・ 武蔵野大学 国際化ビジョン100制定	
H27	・ 4学期制導入 (3学部及び全学部1年生) ・FD委員会をカリキュラム改革委員会から独立させ専門的に組織化	Teaching methodの改革 [第4期] ・アクティブ・ラーニングの積極的推進 (長期フィールド・ワーク、長期インターンシップ、サマーセッション、FD・SD研修、など)

2. 本事業の概要

私たちが育成するのは、
社会のパラダイム・シフトに対応する、

①自発自燃型人材

(自ら課題を設定し、自ら答えを導き出し、解決に向け果敢に行動する人材)

②グローバル人材

(国際ビジネスの知識、国際社会で通用する教養、語学力を有する人材)

③地域貢献型人材

(地域を活性化・再生させるノウハウを有する人材)

3つの方針をブレイクダウンし、より具体化するとともに、

①全学4学期制導入

②アクティブ・ラーニング (Teaching methodの改革)

これら2つのエンジンを軸に、教育改革を加速させる。

平成27年度 3学部及び全学部1年生

平成28年度 全学導入

同時に科目ナンバリング制を導入し、更なる学修成果の実質化を図る。

◆学年暦(概)

月	3月	4～5月	6月	6～9月	9～10月		11～1月	2～3月
学期	入学前教育	第1学期	(5～7日間) 準備期間	第2学期 ・長期学外学修期間① ・補習期間	第3学期 ・秋入学拡充	成果発表(大学祭)	第4学期	・長期学外学修期間② ・補習期間

3つの人材の育成に必要な、

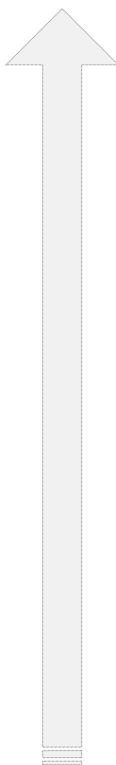
且つ将来の如何なる想定外の状況にも対応できる7つの汎用的能力
を独自に定義

1. 主体性
2. 実行力
3. 課題発見・解決力
4. 計画力
5. コミュニケーション・スキル (特にリーダーシップとチームワーク)
6. 外国語運用能力 (特に英語と中国語)
7. 専門性

4学期制導入による教育効果の最大化・最適化を図るため、
アクティブ・ラーニングを教育課程に効果的に配置、体系化する。

◆武蔵野大学 アクティブ・ラーニング体系

※ が本事業 (当該申請事業)



Fourth step 事例発表

Project study, Presentation, Poster session, Panel discussion

Third step 徹底した事例研究

Problem-based learning, Discussion, Debate through case study

Second step - Off-campus - 学外学修プログラム

Field work, Volunteer, Internship

First step - On-campus - 汎用的能力の理解と獲得

Group work, Facilitation

Second step 長期学外学修プログラム(本事業授業紹介-1)

[1年生]

第2学期(6～9月の4カ月間)を中心に、学生の能力や志向等に応じ、1か月間の学外学修を行う。

◆本事業：1年次長期学外学修プログラム (MBFS)

(※) 現在は短期プログラム(最長10日間)、青字プログラムは平成28年度より長期プログラム(期間1か月以上)に変更

学外学修プログラム		活動・研修先(自治体、企業等)		
海外フィールド・ワーク	1 Taipei ホスピタリティ・ビジネス	JAL、The Ambassador Hotel-Taipei、他		
	2 Cambodia 発展途上国で学ぶグローバル・シチズンシップ	日本エコプランニングサービス他		
	3 タイ・バンコクで体験企画するツーリズム・プログラム	タイ国政府観光庁、他		
	4 USA Los Angeles グローバルキャリア育成プログラム	UnionBank、AKI Home、他		
	5 USA Los Angeles 医療・福祉施設視察研修	UCLAメディカルセンター、他		
	6 CANADA・EDMONTON環境体験プログラム	エルク・アイランド国立公園、他		
国内フィールド・ワーク	7 地方行政フィールド・ワーク(地方公務員の仕事を実際に学ぶ)	北海道東川町役場、他		
	8 「西目屋塾」西目屋村の産業と文化・祭、世界自然遺産を学ぶ	青森県西目屋村役場、他		
	9 仏教フィールド・ワーク「仏教思想・仏教文化の源流を探る」	京都西本願寺、他		
	10 企業訪問・企業研究	各企業40社		
地方創生プロジェクト	被災地ボランティア	11 宮城県石巻市 網地島・渡波地区活性化支援	石巻市網地島地区、NPOスマイルシード	
		12 宮城県名取市 閑上地区復興支援	(社)名取市復興協会、他	
		13 宮城県石巻市 十三浜漁業復興支援	石巻市十三浜地区、他	
		14 石巻市 仮設住宅サポート支援(仮設きずな新聞制作・配布)	(社)ピースボート災害ボランティアセンター	
		15 長野県信濃町 黒姫夕霧みひめゆりか栽培(福島県飯館村農業再開支援)	内藤文隆氏	
	業地体験	16 農業体験実習[長野県長野市、中野市、飯綱町]	JA中野市、JAながの、他	
		17 すだち収穫・農業体験実習	徳島県阿南市役所、他	
		18 たんかん栽培体験実習	鹿児島県徳之島町役場、他	
		地域活性化支援	19 「KAMIKOANIプロジェクト秋田2015」芸術祭イベント運営支援	秋田県上小阿仁村役場、他
			20 地域活性化支援プロジェクト	東京都八丈町役場、八丈町教育委員会
			21 萩観光おもてなしプロジェクト	山口県萩市 萩の宿常茂恵、他
			22 大川市PR企画案作成プロジェクト	福岡県大川市役所、他
			23 ガイドマップ「Navi徳之島!」制作プロジェクト	鹿児島県徳之島町役場、徳之島観光連盟
		24 有明地区景観創出プロジェクト	臨海副都心まちづくり協議会、他	
体験学習	25 社会福祉施設体験実習	社会福祉法人武蔵野千川福祉会		
	26 JFLサッカーゲーム運営支援	NPO法人武蔵野スポーツクラブ		
	27 保育所・学童保育体験実習	(株)アソシエ・インターナショナル		

[2年次以降]

1年次での学びや能力を昇華させるため、メインメジャー及びサブメジャーによる、専門的な長期学外学修プログラムを配置する。

◇メインメジャー・フィールド・スタディーズ (学科ゼミナール)

- ・ 学科別の課題解決型プロジェクト (サマーセッション等海外短期・長期留学含む)

◇サブメジャー・フィールド・スタディーズ (学科横断クラス)

- ・ 海外長期インターンシップ
- ・ 国内長期インターンシップ
- ・ 課題解決型プロジェクト

◆平成27年度 サブメジャー・フィールド・スタディーズ実績

サブメジャー・プログラム [平成27年度3年生] 期間:1~10か月			活動先(自治体、企業等)	履修者数
長期 インタ	海外	海外長期インターンシップ(8つのプログラム)	LA、カナダ、オーストラリア、台湾、等	23人
	国内	国内長期インターンシップ(7つのプログラム)	フジテレビ、東京ベイコート倶楽部、NP O法人武蔵野スポーツクラブ、他	91人

Think independently

「あなた自身で、考えて下さい。

武蔵野大学の学生が、大学で何を学んだかを伝えるだけの卒業は望みません。

実社会の中で何ができるか、自分の意思で行動できる卒業生が誕生することを期待します。」

Find the issue and solutions

「答えを(自分自身で)探してください。

インターネットは今日、私たちの携帯とPCに情報をもたらしました。

しかし、これからの卒表生に必要な重要スキルは、正しい答えを知る(検索する)

能力ではなく、自ら課題を設定し、答えを探し出す能力であり、実行する能力です。」

3. その他（中期的な課題等）

長期学外学修プログラムの特長と、開発による副産物

[特長]

最大の特長は産官学協働でプログラムを開発・推進していること。
産業界等のニーズを取り入れながら、実社会で通用する、
実社会に貢献する実践的な教育プログラムに拘り、開発・推進している。

[副産物]

長期学外学修プログラムは、教職協働で学生を引率・指導。
平成26年度には、総勢90名の教職員により、
共通認識のもと組織的に推進する教育へと昇華させた。
その結果、アクティブ・ラーニング（Teaching methodの改革）に対する
学内の共通認識が更に深まることになった。
事実上、授業そのものが、実践的かつ良質なFD・SDの機会となっている。

プログラム高次化のための中期的な課題

[地方創生支援]

本事業は、活動先への貢献を到達目標の一つに設定している取組が多い。

活動先（地方都市）に根付いた特有の文化や産業を知る学びを通し、日本の文化や産業の継承、発展、雇用等をフォローする取組への昇華も目指す。

[地方創生支援 × グローバル化]

活動先（地方都市）の要求として多いのが、「六次産業化推進」と「海外販路の契機・拡大」の2つ。地方都市との連携の進展には、「新産業（開発、PR、販路）」と「グローバル化」のキーワードへの対応が不可欠であり、学内組織（産学連携室、国際推進関連組織、等）の改革充実を同時に推進する。

[他大学との連携]

活動先である自治体・地方公共団体等より、将来展望として地元大学等との連携要請がある。そのため、本事業プログラムの成熟状況によって、最終年度（平成31年度）より前の段階で、複数大学での連携体制を実現したい。